

## 寺田寅彦の欧文論文『On shakuhati』翻訳の試み

河野 辰彦

貴志様から、ご自宅に所蔵する寺田寅彦欧文論集 I 巻の中の 81 頁以降に掲載されている標記の本論文を紹介され、翻訳を試みることにしました。拙訳文ではありますが、尺八研究会の皆様や、尺八愛好家に興味を持っていただければと思います。翻訳を試みることにしました。

寺田寅彦については、“昔の物理学者”であることくらいしか知らなかったのですが、ネットで調べていくうちに、『空气中を落下する特異な物体の運動一椿の花』と題する英文論文を発表していたり、夏目漱石を師と仰ぎ俳句を嗜んだりしたことを知りました。特に驚いたのは彼の学位論文が、『日本の竹製管楽器 尺八の音響学的研究 ; Acoustical Investigation of the Japanese Bamboo Pipe Syakuhati』であったことでした。

これらの論文では、尺八に置き換えて簡単なガラス管を用いて実験し、学位論文では六孔尺八を提案したりしています。一流の物理学者が尺八の音色に興味を持ち、それを科学的に解明したことにはとても興味があり、尺八が理にかなった楽器であることも理解できました。翻訳を終えて、寺田寅彦が尺八を吹く私にはとても身近な存在であると思えるようになりました。